

第77期報告書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

Speciality
Chemical
Partner

荻川化学工業株式会社

Speciality Chemical Partner

個性を伸ばし 技術とサービスで みんなの夢を実現する

C O N T E N T S

株主の皆様へ	2
トップ・インタビュー	3
<i>What is ROSIN?</i>	
社会のさまざまなシーンで活躍するロジン	5
事業の概況	7
財務諸表	9
<i>Information</i>	
荒川化学の魅力をお伝えするために	13
会社の概要／株式の状況	14

株主の皆様へ



代表取締役社長

末村長弘

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ここに、第77期報告書（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）をおともにお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当期の国内経済は、企業収益も改善し設備投資も引き続き増加するなど、回復を続けましたが、石油関連製品をはじめとする素材価格が上昇し、予断を許さない状況が続いております。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、主力製品のシェア拡大、新規用途開発による高付加価値化、生産プロセスの合理化などによる製品コストの削減に努めてまいりました。また、環境に配慮した製品の拡販や、電子材料関連分野での販売を強化してまいりました。海外におきましては、製品の拡販、中国における市場開拓を展開してまいりました。

その結果、当期の売上高は616億63百万円（前期比10.1%増）、営業利益は28億31百万円（同25.6%増）、経常利益は29億8百万円（同13.5%増）となりました。また、当期純利益は16億37百万円（同23.2%増）となりました。

当社は、昨年の11月をもって創業130周年を迎えることが出来ました。これもひとえに株主の皆様方のご支援の賜物と心から感謝申し上げます。つきましては、今期の期末配当金は、1株につき10円の普通配当に創業130周年記念配当として4円を加え、1株につき14円とさせていただきます。これにより中間配当（1株につき10円）を含めました当期の年間配当金は1株につき24円となりました。

迎えた平成19年度は、現中期5ヵ年経営計画の最終年度であり、次期中期5ヵ年経営計画へのステップとなるための非常に重要な意味を持つ年であります。そこで年度指標を「次なる夢へ 知恵の結集 グループの結束」と定め、荒川化学グループの総力をあげて企業価値向上に邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

社会により一層貢献することを追求し、
自然の恵みを有効に活用し、
地球環境との調和を図りながら、
新たな技術を切り開く企業となるため、
「Speciality Chemical Partner
スペシャリティ・ケミカル・パートナー」を
掲げる末村社長に
当社の今後の方向性について聞きました。

Q 今後の海外展開について教えてください。

A この10年間は特に中国への投資に力を注いで来ました。4つの製造販売拠点の稼働状況も軌道に乗りました。ただ、中国一国へ経営資源を集中するにはリスクが大きいと感じております。今後は既存のタイの拠点を活用しながら、電子材料も含めて市場の注目が高まりつつあるインドの動向にも注目する必要があるでしょう。

トップインタビュー

Q 中国では、どのように事業を展開しているのですか？

A 当社はロジン（樹脂）を主原料としておりますが、中国は世界最大のロジン供給国です。その中国において安定的なロジンの確保と、ロジンを原料とした製品を製造・販売し、中国を中心としたアジア市場に広く販売していくことを目的に事業を進めております。ロジンを製造する広西荒川化学工業、そこで製造したロジンなどを原料として幅広い製品を製造する梧州荒川化学工業、廈門荒川化学工業、南通荒川化学工業が、各地での特色を活かして稼働しております。



広西荒川化学工業有限公司（平成 17 年 11 月稼働）



Q ペルノックス株式会社の優位性は何ですか？

A ペルノックスは、エレクトロニクス用エポキシ樹脂製品・ウレタン樹脂製品・シリコン樹脂製品をはじめ、導電樹脂・試作モデル用ウレタン樹脂製品といった特徴ある電子材料用樹脂の製造・販売に秀でた会社で、同社の配合・分散技術には定評があります。平成19年4月、荒川化学は電子材料分野においての、さらなる発展を使命として「光電子材料事業部」を新設しました。平成19年7月にはペルノックスの新しい本社、工場および開発センターが完成します。荒川化学の合成技術との相乗効果を発揮させ、電子材料関連分野の拡大を目指してまいります。どうかご期待ください。



南通荒川化学工業有限公司（平成17年2月稼働）

中国における市場開拓を促進

荒川化学グループは、国際展開の一環として中国における事業展開をより迅速に実施できる体制を整備しております。なかでも、ロジンやロジン誘導体などを製造する広西荒川化学工業は年間約4万5千トン、製紙用薬品を製造する南通荒川化学工業は年間約2万トンの生産能力を有しており、国際戦略における主要な生産拠点として順調に稼働しております。

Q 研究開発への意欲についてお聞かせください。

A 荒川化学グループ従業員のうち、約2割が研究開発スタッフで、毎年20億円を越える研究開発費を投じております。ロジンに代表される地球にやさしい素材と独自の技術を通して、石油化学や合成高分子化学、あるいはファインケミカル分野への技術を開発、発展してまいりました。常に一步先の未来を見つめながら諸問題の提起・提案・解決を図る「スペシャリティ・ケミカル・パートナー」の心を大切にしております。



エポキシ樹脂が使用されている製品

ペルノックスを完全子会社化

平成18年9月、当社はペルノックス株式会社を完全子会社化いたしました。エポキシ樹脂、シリコン樹脂など特徴ある電子材料用樹脂を製造・販売する同社との相乗効果により、荒川化学グループの電子材料関連分野のさらなる強化につながるものと期待しております。

※ペルノックス株式会社は、平成19年4月1日に「日本ペルノックス株式会社」から社名を変更いたしました。



研究所（大阪市鶴見区）

研究開発の成果を実績に

当社は、当社独自の視点・技術でさまざまな問題を提起・提案しながら解決していくことを目的に研究開発を進めております。新技術の開発のみならず、高度情報化からエレクトロニクスなどの最先端分野への応用まで、研究の成果は学会や専門誌で常に発表されており、当社の研究体制の確かな裏づけとなっております。

ロジンは暮らしを支えています

「ロジン」は、松の幹に傷をつけ、にじみ出た松やに（樹脂酸）を集めて精製したモノ。野球のピッチャーが滑り止めに使う「ロージンバッグ」。この原料も同じ「ロジン」です。「ロジン」が「ネバネバしてる」ということを容易に想像頂けると思います。「ロジン」は、紙・インキ・塗料・粘着テープなど、現代の日常生活には欠かせない製品に使われており、その活躍の場はさらに広がっております。

社会のさまざまなシーンで活躍する

ロジン

What is ROSIN ?



生松脂採取



自然界から得た
原料だから安心…



生松脂入荷

精製



ロジン包装



ロジン

荒川化学は ロジンと歩んで130年

荒川化学では、明治9年の創業以来、130余年に及ぶ永きにわたり「ロジン」を原料とする各種誘導体メーカーのパイオニアとして地位を確立してまいりました。例えば、紙のにじみ止め薬品、印刷インキ用樹脂、粘着・接着剤用樹脂などを開発し、日本の産業の発展に大きく貢献してまいりました。国内で消費されるロジンは大半が中国などから輸入されていますが、荒川化学は日本の輸入量全体の約5割を取り扱い、国内最大の加工メーカーとして工業用原料の製品化に取り組んでおります。

これからも ロジンとともに社会貢献

地球環境への関心が社会で高まる中、荒川化学は、ロジンという自然の恵みを生かした事業をおこなう企業としての社会的責任も大きくなっていると考えております。そのため、当社は基幹製品のさらなる深耕に努めるとともに、有機溶剤を使わない粘着・接着剤用樹脂など、地球環境に優しい製品の研究や開発に引き続き取り組んでまいります。併せて、お客様の多様なご要望にお応えできる生産・販売体制のいっそうの充実に注力してまいります。

紙の文字をくつきり…



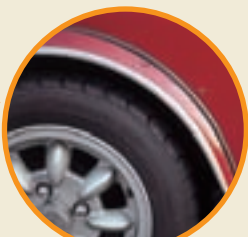
印刷用紙



新聞紙



印刷用インキ



タイヤ

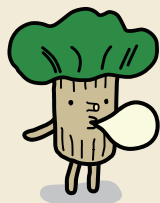


粘着・接着剤



チューインガム

この噛み心地!



くっつける、はりつける…



身近なところで「ロジン」が大活躍!

文字がくつきりするのはロジンのおかげ!

紙に文字がにじまず、くつきり書ける。新聞や辞書の細かい文字もはっきり読める。これはインキが紙にしみこむ度合いをうまくコントロールするロジンから造られたサイズ剤という薬品が働いているからなのです。

綺麗な印刷物の陰にロジン!

雑誌や新聞などの印刷インキには、インキを紙にしっかりくっつけたり、字や写真の色に光沢を出して綺麗にみせたりするために、ロジンが役立っています。

チューインガムはロジンを噛んでいます!

チューインガムは、弾力性のあるガムベースという素材に甘味料や香料を加えて造られています。このガムベースの原料がロジンです。ロジンはガムの伸びを良くし、噛み心地を良くします。

荒川化学
グループ
へ出荷

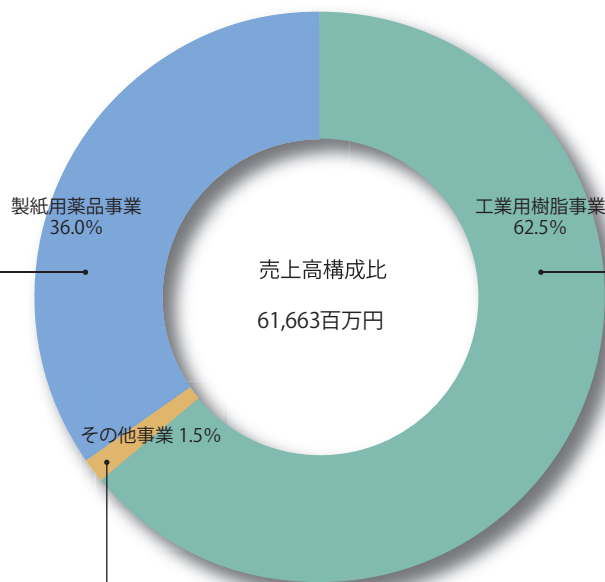
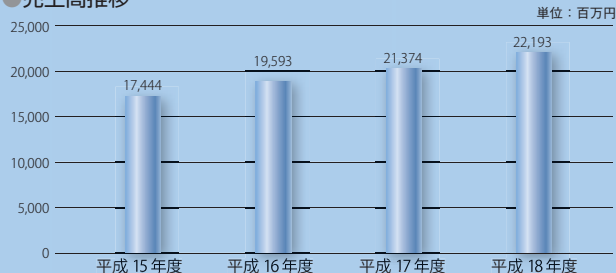
製紙用薬品事業



国内製紙業界は、需要の伸び悩みが見られ、生産はほぼ横ばいとなりました。このような状況のもと、当事業におきましては、塗工紙用薬品の減少がありました。サイズ剤、粘着ラベルなどの剥離紙に使用されるシリコン樹脂の売上が伸びました。また、海外の子会社におきましても、南通荒川化学工業の本格稼働による紙力増強剤の拡販および梧州荒川化学工業でサイズ剤の売上伸長が貢献したことなどから、売上が増加しました。利益面では、原材料価格高騰に対し、製品価格の改定は国内外とも原料価格上昇分を吸収するまでに至りませんでした。中国における現地生産化や製品コストの削減などが大きく貢献し、増益となりました。

その結果、売上高は221億93百万円（前期比3.8%増）、営業利益は11億34百万円（同52.9%増）となりました。

●売上高推移



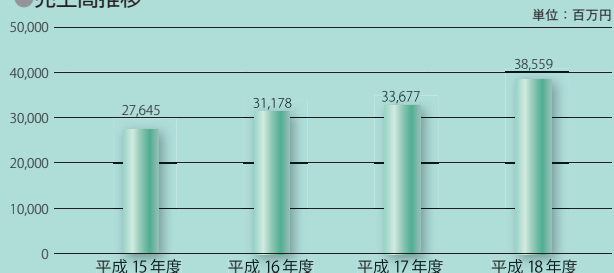
工業用樹脂事業



国内の印刷インキ、塗料、粘着・接着剤および合成ゴム業界は、概ね堅調に推移しました。また、電子工業業界は、需要の回復が見られ、産業用電子機器、電子部品・デバイスを中心に堅調に推移しました。このような環境のもと、当事業におきましては、オフセットインキ用樹脂、合成ゴム重合用乳化剤、環境に配慮した光硬化型樹脂や塗料用樹脂の売上が順調に推移しました。新規分野では精密部品洗浄剤、超淡色ロジン、電子材料用樹脂の売上が伸長しました。また、日本ペルノックスにおきましては、需要の拡大に減速感が見られるものの、売上は増加しました。海外の子会社におきましても、全般的に売上が増加しました。利益面では、原材料価格高騰に対し、製品価格の改定は国内外とも原材料価格上昇分を吸収するまでには至りませんでした。高付加価値製品の拡販などにより、増益となりました。

その結果、売上高は385億59百万円（前期比14.5%増）、営業利益は16億28百万円（同14.9%増）となりました。

●売上高推移



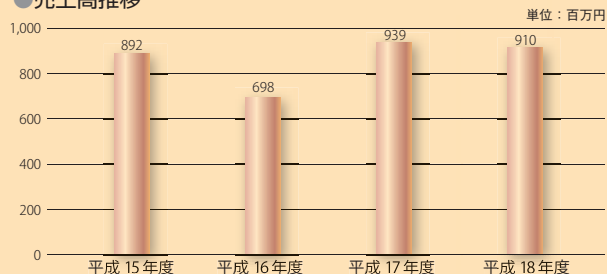
その他事業



洗浄機械の売上が減少し、減収減益となりました。

その結果、売上高は9億10百万円（前期比3.0%減）、営業利益は67百万円（同28.1%減）となりました。

●売上高推移



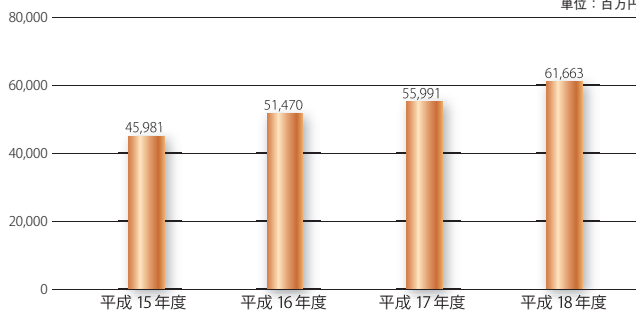
連結貸借対照表

科目	当 期 (19.3.31 現在)	前 期 (18.3.31 現在)
[資産の部]		
流 動 資 産	41,172	35,451
現金及び預金	2,457	4,187
受取手形及び売掛金	25,846	21,167
たな卸資産	11,685	8,492
その他	1,302	1,725
貸倒引当金	△ 120	△ 122
固 定 資 産	26,560	26,561
有形固定資産	18,765	17,988
建物及び構築物	5,988	6,088
機械装置及び運搬具	5,807	5,871
土地	5,241	5,240
その他	1,727	788
無形固定資産	830	924
投資その他の資産	6,964	7,648
投資有価証券	6,320	7,036
その他	721	892
貸倒引当金	△ 77	△ 280
資 産 合 計	67,732	62,012

業績の推移

●売上高

単位：百万円



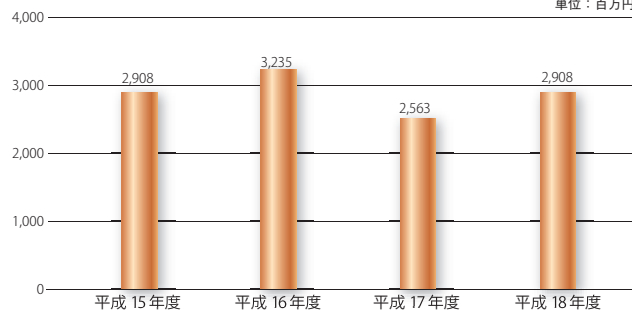
(単位：百万円)

科目	当 期 (19.3.31 現在)	前 期 (18.3.31 現在)
[負債の部]		
流 動 負 債	26,589	21,455
支払手形及び買掛金	13,346	10,910
短期借入金	8,958	6,530
その他	4,284	4,014
固 定 負 債	4,080	3,833
長期借入金	870	254
退職給付引当金	2,016	1,976
役員退職給与引当金	316	272
その他	877	1,328
負 債 合 計	30,670	25,289
[純資産の部]		
株 主 資 本	33,194	31,956
資本金	3,128	3,128
資本剰余金	3,350	3,350
利益剰余金	26,725	25,482
自己株式	△ 9	△ 3
評価・換算差額等	2,251	2,709
其他有価証券評価差額金	1,952	2,625
為替換算調整勘定	299	84
少数株主持分	1,616	2,057
純 資 産 合 計	37,062	36,723
負債純資産合計	67,732	62,012

(注) 純資産の部は、前期分(資本の部)を組替えております。

●経常利益

単位：百万円



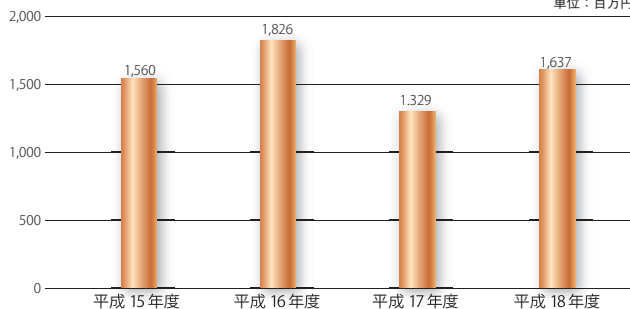
連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 (18.4.1 から 19.3.31 まで)	前 期 (17.4.1 から 18.3.31 まで)
売上高	61,663	55,991
売上原価	48,882	44,212
売上総利益	12,781	11,778
販売費及び一般管理費	9,950	9,524
営業利益	2,831	2,254
営業外収益	500	440
営業外費用	423	131
経常利益	2,908	2,563
特別利益	9	53
特別損失	28	69
税金等調整前当期純利益	2,888	2,547
法人税、住民税及び事業税	1,207	1,021
法人税等調整額	△ 74	0
少数株主利益	117	196
当期純利益	1,637	1,329

● 当期純利益

単位：百万円



連結株主資本等変動計算書 (18.4.1 から 19.3.31 まで)

(単位：百万円)

科 目	株主資本	評価・換算 差 額 等	少数株主 持 分	純 資 産 合 計
平成18年3月31日残高	31,956	2,709	2,057	36,723
連結会計年度中の変動額				
剰余金の配当	△ 369			△ 369
取締役賞与	△ 25			△ 25
当期純利益	1,637			1,637
自己株式の取得	△ 5			△ 5
株主資本以外の項目の当連結 会計年度中の変動額 (純額)	—	△ 458	△ 441	△ 899
連結会計年度中の変動額合計	1,238	△ 458	△ 441	338
平成19年3月31日残高	33,194	2,251	1,616	37,062

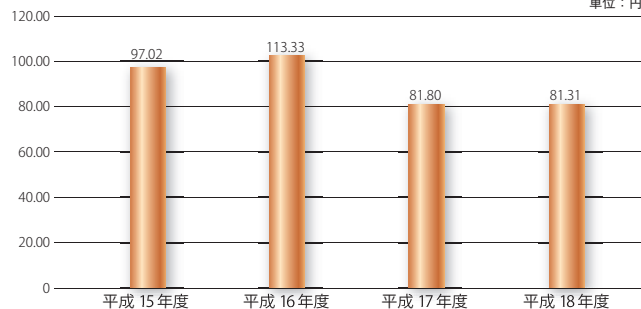
連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 (18.4.1 から 19.3.31 まで)	前 期 (17.4.1 から 18.3.31 まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,238	1,015
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,637	△ 4,637
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,502	1,923
現金及び現金同等物に係る換算差額	23	269
現金及び現金同等物の増加額 (又は減少額)	△ 1,350	△ 1,429
現金及び現金同等物の期首残高	3,746	5,175
現金及び現金同等物の期末残高	2,396	3,746

● 1株当たり当期純利益

単位：円



(注) 平成18年4月1日付で普通株式1株につき1.2株の割合で株式分割をおこなっております。

貸借対照表

科 目	当 期 (19.3.31 現在)	前 期 (18.3.31 現在)
[資産の部]		
流 動 資 産	33,118	28,011
現金及び預金	1,008	2,081
受取手形	2,116	1,636
売掛金	20,689	17,079
たな卸資産	7,395	5,704
その他	1,998	1,598
貸倒引当金	△ 90	△ 90
固 定 資 産	25,084	25,648
有形固定資産	12,548	12,794
建物	3,405	3,526
機械装置	3,226	3,255
土地	4,584	4,583
その他	1,332	1,429
無形固定資産	276	155
投資その他の資産	12,260	12,698
投資有価証券	5,897	6,658
その他	6,371	6,246
貸倒引当金	△ 8	△ 206
資 産 合 計	58,203	53,659

(単位：百万円)

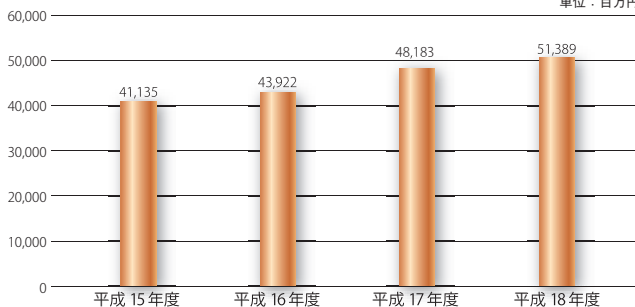
科 目	当 期 (19.3.31 現在)	前 期 (18.3.31 現在)
[負債の部]		
流 動 負 債	21,524	17,237
支払手形	2,419	1,886
買掛金	9,047	7,282
短期借入金	6,450	5,100
1年以内返済予定長期借入金	239	225
その他	3,367	2,742
固 定 負 債	3,459	3,496
長期借入金	596	246
退職給付引当金	1,717	1,686
役員退職給与引当金	275	241
その他	869	1,321
負 債 合 計	24,983	20,733
[純資産の部]		
株 主 資 本	31,279	30,319
資本金	3,128	3,128
資本剰余金	3,350	3,350
利益剰余金	24,810	23,845
自己株式	△ 9	△ 3
評 価 ・ 換 算 差 額 等	1,940	2,606
その他有価証券評価差額金	1,940	2,606
純 資 産 合 計	33,220	32,925
負 債 純 資 産 合 計	58,203	53,659

(注) 純資産の部は、前期分(資本の部)を組替えております。

業績の推移

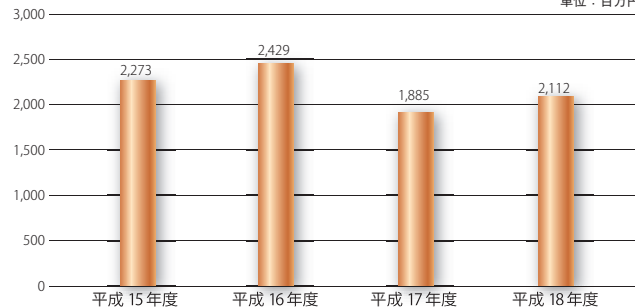
●売上高

単位：百万円



●経常利益

単位：百万円



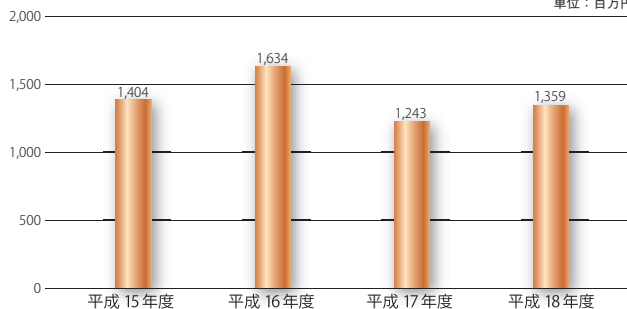
損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 (18.4.1 から 19.3.31 まで)	前 期 (17.4.1 から 18.3.31 まで)
売上高	51,389	48,183
売上原価	42,444	39,612
売上総利益	8,945	8,570
販売費及び一般管理費	7,648	7,412
営業利益	1,296	1,158
営業外収益	1,032	805
営業外費用	216	79
経常利益	2,112	1,885
特別利益	3	52
特別損失	20	50
税引前当期純利益	2,095	1,886
法人税、住民税及び事業税	760	650
法人税等調整額	△ 24	△ 6
当期純利益	1,359	1,243

● 当期純利益

単位：百万円



株主資本等変動計算書

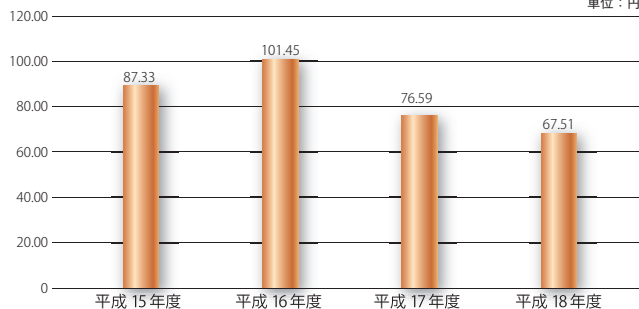
(18.4.1 から 19.3.31 まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本	評 価 ・ 換 算 等 差 額	純 資 産 計
平成18年3月31日残高	30,319	2,606	32,925
事業年度中の変動額			
剰余金の配当	△ 369		△ 369
取締役賞与	△ 25		△ 25
当期純利益	1,359		1,359
自己株式の取得	△ 5		△ 5
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)	—	△ 665	△ 665
事業年度中の変動額合計	960	△ 665	294
平成19年3月31日残高	31,279	1,940	33,220

● 1株当たり当期純利益

単位：円



(注) 平成18年4月1日付で普通株式1株につき1.2株の割合で株式分割をおこなっております。

荒川化学の 魅力を お伝えするために

荒川化学の創業130年を記念して
フルアニメーションCMを放映

マツタロウって？



「マツタロウ」は「松の妖精の子供」という設定のもと、ロジンのこと、荒川化学のことをわかりやすく紹介していくキャラクターです。



当社は、キャラクター「マツタロウ」を活用した広告活動を通して企業価値向上のための施策に取り組んでおります。昨年、創業130年を迎えたことを機に、優しく温かいタッチのフルアニメーション・テレビCMを制作し、本年1月に放映いたしました。

テレビCM

「にじまない文字編」「粘着テープ編」
ホームページの「ナニ？何？荒川化学」の中の「広告活動」で、このCMがご覧いただけます。

会社概要 (平成 19 年 3 月 31 日現在)

商号	荒川化学工業株式会社
創業	明治 9 年(1876年)
設立	昭和 6 年 1 月(1931年)
資本金	31 億 2,830 万円
グループ従業員	1,128 名
主な事業内容	次の製品の製造および販売 製紙用薬品、印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂、 合成ゴム重合用乳化剤、粘着・接着剤用樹脂、 食品添加物用樹脂、電子材料用樹脂、 精密部品洗浄システムおよびその関連機器
ホームページアドレス	http://www.arakawachem.co.jp

役員 (平成 19 年 6 月 21 日現在)

代表取締役社長	末村長弘
常務取締役	草野 侗
常務取締役	中尾光良
取締役	山中勝之
取締役	荒川壽正
取締役	松本圭三
取締役	三谷育洋
取締役	河村敏嗣
取締役	谷奥勝三
監査役(常勤)	中安輝雄
監査役(常勤)	川谷公雄
監査役	岩城本臣
監査役	鈴木宗夫

(注) 監査役岩城本臣および鈴木宗夫の両氏は、社外監査役であります。

株式の状況 (平成 19 年 3 月 31 日現在)

発行可能株式総数	52,800,000 株
発行済株式の総数	20,150,400 株
株主数	3,119 名
大株主	

株主名	当社への出資状況	
	持株数	議決権比率
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,207 千株	5.99 %
荒川化学従業員持株会	1,042	5.17
株式会社三菱東京UFJ銀行	940	4.66
荒川壽正	922	4.57
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	680	3.37
荒川彦二	420	2.08
三菱化学株式会社	406	2.01
株式会社みずほ銀行	397	1.97
株式会社三井住友銀行	396	1.96
高橋忍	360	1.78

グループ会社の状況 (平成 19 年 3 月 31 日現在)

会社名	資本金	議決権比率
南通荒川化学工業有限公司	5,500 千米ドル	100%
日本ペルノックス株式会社	60 百 万 円	100%
高压化学工業株式会社	60 百 万 円	100%
梧州荒川化学工業有限公司	3,500 千米ドル	90%
広西荒川化学工業有限公司	12,000 千米ドル	70%
台湾荒川化学工業股份有限公司	149,226 千新台幣元	60%
ARAKAWA CHEMICAL(USA) INC.	1,400 千米ドル	100%
カクタマサービス株式会社	100 百 万 円	100%
HONG KONG ARAKAWA CHEMICAL LTD.	4,000 千米ドル	60%
廈門荒川化学工業有限公司	5,603 千米ドル	間接 60%
ARAKAWA CHEMICAL(THAILAND) LTD.	119,000 千タイパーツ	50%
ARAKAWA Europe GmbH	52 千ユーロ	40%

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	6月中		
基準日	定時株主総会	3月31日	
	剰余金の配当	期末	3月31日
		中間	9月30日
公告方法	日本経済新聞		
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社		
同事務取扱場所 (お問い合わせ先)	大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)		
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村証券株式会社 全国本支店		

株式関係のお手続き用紙のご請求は、
次の三菱UFJ信託銀行の電話およびホームページでも
24時間承っております。

電話 (通話料無料)

0120-244-479 (本店証券代行部)

0120-684-479 (大阪証券代行部)

ホームページアドレス

<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

荒川化学工業株式会社

大阪市中央区平野町1丁目3番7号 〒541-0046
電話 06-6209-8500(代表)



地球に優しい大豆インクと再生紙を使用しております。
この SOY INK マークは米国大豆協会承認マークです。